

名古屋経済大学市邨高等学校

ビオトープ(庭園)の考え方・活かし方

名古屋経済大学市邨高等学校 理科

1. コンクリート池の再生

コンクリート池は、コンクリートで四方と底がおおわれていて、水の出入りがなく、水がすぐによごれてしまいます。夏になるとボウフラ(カ)が大量に発生してしまい困っています。

解決するには、①池の中をそうじする。②コンクリート池の水を入れかえるようにする。などが考えられます。



コンクリート池

2. 有機農法による野菜の栽培

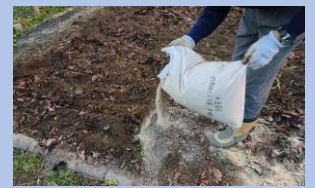
有機農法とは、農薬や化学ひ料の使用をひかえた野菜を栽培する農法です。

農園できたジャガイモやサツマイモは、千種区のみなさまに無料で配布しました。

作っている野菜は、夏野菜・秋冬野菜。レモンやキウイフルーツ、イチジクなど木になる果物も作っています。



耕します



米ぬかを畑にまきます

3. 四季による校内の樹木・草花・昆虫・鳥の観察

学校の場所は、名古屋市千種区で、都市化が進んでいる地域です。学校のビオトープは、人の手を入れ、自然を残している場所で、多くの生き物たちがいます。春・夏・秋・冬に見られる生き物を観察・調査しています。



スズメの砂浴び



ツグミ

4. 生ごみのたい肥化と落ち葉ごみのたい肥化

学校の食堂で出る「生ごみ」や「落ち葉」を農園に集めたい肥を作ります。たい肥は、畑に入れると土が良くなり、野菜の生長を助けます。

令和2年度に減らした「生ごみ」は、3トン。「落ち葉」は、1トンになります。



生ごみ・落ち葉たい肥場所

5. ドローン使用による自然環境調査

ドローンは、プロペラが回転することで飛行する無人航空機です。スマートフォンや iPad とつなぎ、動かします。

カメラが付いており、上空からの撮影に適しています。学内や山・川・海の自然観察で使います。



農園 上空 15m からの写真

6.(まとめ)ビオトープの考え方・活かし方

私たちは、名古屋市千種区でビオトープ(庭園)づくりを7年間続けています。多くの生き物と共存するための、持続可能な環境づくりの課題は多くあります。目標に取り組むことができたか、できていないかは、SGD 'S の17の項目から確認します。本年度取り組みができた項目は、6つあります。

